



三春中学校だより

第 15 号

発行日 令和 元年 7 月 5 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【“心を込めて”って何のため？ ～自信をもって自分の人生を歩むために。～】

この日も子どもたちと一緒に会議室・校長室清掃に取り組みました。いつもどおりほうきをかけてその後、雑巾がけ。場所を会議室に移動し、ほうきがけと雑巾がけ、班長さんがテーブルふきまできました。ただ、(?)。何だかいつもと雰囲気違います。

原因がわからなかったので、清掃終了後、班長さんと話し合いました。この日は、私の清掃に対する考え方を少し伝えました。帰りの短学活もあったので話を切り上げて、今度は班長さんの考えを聞かせてねと約束してわかれしました。

学校では清掃をなぜするのでしょうか。ご家庭でのお掃除は何のためにするのでしょうか。たぶん「汚いから。」「汚くなるから。」「きれいな方が気持ちがいいから。」という答えが返ってくるでしょう。三春中学校の『清掃指導全体計画』をみると、「校舎内外の清掃・整理整頓をすることによって、よい環境の中で学習や生活をしようとする態度を養う。」「異学年との活動を通して、社会性を身につけたり互いに協力し合ったりする心情を養う。」とありました。美しい歌声を求める合唱の練習の場にゴミが落ちていたら。学年フロアにゴミが散乱してたら。雑巾が真っ黒になってそこらに放り投げてあったら。幸い、三春中学校のCGのピアノの周りは床が光っています。学年フロアをきれいにほうきがけしてくださる先生もいます。雑巾がけには使った後きれいにされた白い雑巾がかかっています。

残念ながら、班長さんとの話し合いはまだ実現していないので、“掃除とは何か”についてじっくり話し合ってみたいと考えています。



【心肺蘇生法講習会、全学年で実施！ ～自らの命は自ら守る。みんなを守る。～】

6月25日(火)・26日(水)・27日(木)と3日連続で、日本赤十字社福島支部より講師をお二人ずつお招きし、学年ごとに『救命救急法講習会』を実施しました。

安全・安心な学校は教育の土台・基本でなくてはならないという考えのもと、いかなる場や時間においても、命を守る術は身につけておかなければなりません。“いざというとき”のために訓練は必ず必要です。気道確保、胸骨圧迫、人工呼吸などの救命救急法を3年生はこれで3年間学ぶことになります。注意は払っているというものの、登下校時、部活動中、休み時間での事故など、いつ何時、緊急事態が生じたとしても、備えさえあれば被害を防いだり最小限に抑えたりすることも可能です。

講師の先生からは、「たいへん一生懸命話を聞き、実技への取組態度もすばらしかった。」というお話をいただきました。使わないですむことがいちばんですが、“いざというとき”のために、そして、安全・安心な学校づくりを常に心がけ、怠らずに教育活動にあたってまいります。



【「人の役に立つ人間になろう！」～少数民族の子どもたち、そして、帝京安積高校和太鼓部のみなさんから大切なことを学んできました。～】

6月23日(日)、岩江中学校において、令和元年度三春方部幼小中PTA連絡協議会交流会が開催され、会長様・副会長様・教頭・校長の4名が参加いたしました。

前半の部は教育講演会で、宍戸仙助氏を講師に、『山岳少数民族の子どもたちの「瞳の輝き」から学ぶこと』と題しての講演会でした。海外の少数民族の住む地域に学校づくりの支援をしている団体のまとめ役として講師の先生ご自身が経験なされたことに関わるお話でした。宍戸氏は、決して裕福

ではないけれど、そこで学ぶ子どもたちの目の輝きにすっかり魅了され、現在のお仕事をこれまで続けてこられたということでした。

「人の役に立つ人間になろう。」とは宍戸氏から出た言葉です。人は何のために生きているのかという問いに、先生はこう答えました。それが先生の生きる目的でもあるのでしょうか。“貧しくても”という考えではなく、それだけ、「学ぶこと」は素晴らしいことなのだと思います。“自ら学ぶ”ことの大切さ、すばらしさを再確認させていただいた気持ちがしました。

交流会後半の部は帝京安積高校和太鼓部による演奏をお聞きました。ほとんどが素人として入部し、全国大会の上位入賞の常連にまで3年間であるそうです。岩江中学校のそばには住宅地が隣接していますが、心地よい和太鼓の響きを辺りでも楽しめたのではないのでしょうか。山岳民族の子どもたちのお話の中に出てくる子どもたちと帝京安積高校和太鼓部の高校生に共通していたのは、『目の輝き』と『明るい表情』でした。人はきっと何か物事に夢中になったり、一生懸命に何かをしたりしているときには、その気持ちが瞳や表情に現れるのでしょうかね。

宍戸仙介氏の講演中の言葉に、「輝く瞳は生きること、学ぶことに一生懸命だから。その瞳の中には輝く未来が広がっている。」「人の役に立ちたい、生きていけば必ずいいことがあると思える社会をつくろう。」「学校は夢と希望を育む場である。」というメッセージがあったような気がします。宍戸氏の言葉か自分の思いか途中でわからなくなるほど、内容に没入できご講演でした。



【きちんと並んで！ ～プールへの道のりも整然と、注意して移動します。～】

校長室で仕事をしていると、体フェスの時の田村高校の『集団行動』の際のようなリーダーのかけ声が聞こえてきました。何だろうと思って窓の外を眺めると、体育の授業で男子生徒が移動中でした。先頭のリーダーの引率のもと、等間隔で、1列で整然と移動中でした。列が乱れたときには、「はみ出ている。曲がっている。」というようなリーダーの声も聞こえてきました。

頼もしく、微笑ましいひとときでした。



【田村P連三役会・常任委員会開催！ ～ますますの充実、連携・協力をめざします。～】

田村地方PTA連合会の事務局を仰せつかっている本年度、7月1日（月）には、8月4日（日）に行われる田村地方PTA連合会研究大会の準備会を本校で行いました。田村地方PTA連合会の三役と常任委員のみなさんにお集まりいただき、当日までの準備、前日の準備会、当日のタイムスケジュールと役割分担などについて話し合いました。佐久間会長様を中心に、三春中学校父母と教師の会の活動充実、田村P連のますますの連携・協力をめざしてまいります。

